TAKE FREE
西脇市立西脇病院　広報誌　令和7年3月31日発行

Heart to Heart

Vol. 43

『思えば遠くへ来たもんだ』

西脇市病院事業管理者・病院長
岩井　正秀

「おーい、研修医、おとなし過ぎるぞー。前に出て、なんか歌えーっ！」騒がしい宴会場の中を、院長のひときわ大きな声が響きわたる。飲めない酒が過ぎて赤い顔になっていた研修医は、「えーっ？」と言いながら、ヨロリと立ち上がった。

「人生七十古来稀なり」と言われる古稀が近づいてきた。杜甫の時代ならいざ知らず、現代では稀どころか、多くの人が元気に働いている。しかし、まだ私たちが子供の頃は、七十才といえば、もう年寄りの範疇で、隠居してのんびり暮らしている世代というイメージがあったのも確かである。振り返ってみれば、自分自身がこの年になっても、こうして働いているというのは、ある意味驚きであるし、運にも恵まれていたのだと思う。

病院に勤めるため、西脇市に引っ越してきたのが三十四才の時であった。もう、すでに今までの人生の内の半分以上をこの町で暮らし、この病院で仕事をしていることになる。

就職したときは医長ですらなく、一介の内科医員であり、少ない研修医と共に働く毎日であった。当時は収益のことなど細かく言われることもなくて、患者さんのことだけを考え、ストレスも感じずに診療ができていた。そこには充実感があり、喜びもあった。

しかし、自分が責任のある立場になって行くとともに、時代は変わり、医療を取り巻く状況も大きく変化してきた。病院を保つためには、経営を考えることが重要となったのである。

医療のことしか分からない人間が経営を考えるのは大変である。しかし病院が成り立たなくなれば、それは結局、患者さんに大きな影響を与えることになる。高齢化の進むこの地域の人達が、今よりもさらに遠い病院を受診せねばならず、その結果、そこに多くの患者さんが集中し混乱することになるだろう。

それまでは、目の前の患者さんのことにのみ集中していれば良かった生活が、経営のこと、人事のことを考えることに重きを置かなくてはならなくなった。特に院長となってそれは顕著になり、兵庫県や大学の様々な人たちを訪ね、お願いをする日々は今も続いている。直接患者さんと接する時間は減ってはきたが、しかし、病院を守ることが即ち患者さん達を守ることであり、それが自分の責務であるという思いは変わっていない。

外来や病棟に多くの患者さんを抱え、昼夜を問わず診療に走り回っていた日々を共に過ごして来たスタッフも、退職などで少なくなった。しかし残っている人達は、きっと、昔からの医療に対する気持ちを持ち続けてくれており、また、私が病院の運営を考えるのは、今も患者さんのためだということを、必ず分かってくれていると信じている。その思いを胸に、必要とされるのであれば、もう少しの間、病院で働きたいと願う早春の日々なのである。

研修医はふらふらと千鳥足で前の席に進み、一礼すると、「歌います！」と言って、手拍子を始めた。

「いんちょお、いんちょおとお
いばるな、いんちょ
ア、ヨイ、ヨイ
いんちょ、けんしゅいのお
なれのおはて
ア、ヨオイ、ヨオイ、デッカンショ」

場は盛り上がり、「ええぞーっ」と声が掛かる。件の院長はと見ると、笑いながら「うまいこと言うやないか！」と言って手を叩いていた。

前に出て歌った研修医は、三十年後に西脇病院の院長になり、それを十一年続けることになる。しかし、「成れの果て」に至るまでの、そしてなってからの道のりは決して平坦ではなく、また、その日々が、苦悩と歓喜に満ちたものであることは、彼には、まだ知る由もないのであった。

西脇市立西脇病院　広報誌
「ハート to ハート」vol.43
〈発行日〉令和７年３月31日
〈編集〉広報研修委員会
〈発行〉西脇市立西脇病院　〒677-0043 兵庫県西脇市下戸田652番地の１
TEL.（0795）22-0111　FAX.（0795）23-4580

栄養士の簡単レシピ

豆苗のサラダ

材料　作りやすい分量（2人分）

豆苗	1ｐ（80ｇ）
人参	20ｇ
ひじき	20ｇ
ささみ	1本（60ｇ）
卵	1個（60ｇ）
調味料	
わさび	2ｇ
マヨネーズ	大さじ2
しょうゆ	小さじ1強
ごま	小さじ2

栄養価（1人分）

エネルギー	222kcal
たんぱく質	14g
脂質	16.4g
炭水化物	4.7g
食物繊維	2.2g
塩分	0.9g
カルシウム	88mg
ビタミンA	286μg
ビタミンB_1	0.16mg
ビタミンB_2	0.3mg
ビタミンC	35mg

作り方

① 卵はゆで卵にして、小さく刻む。
② ささみは電子レンジで約2分加熱し、小さくほぐす。
③ 豆苗は、食べやすい大きさ（1.5cm大）に切る。
④ 人参は細切りにする。
⑤ ボールに調味料を合わせて、①～④、ひじき、ごまを加えてよく混ぜ合わせる。
⑥ 盛り付けてできあがり。

豆苗にはビタミンA、ビタミンB群、ビタミンCなどビタミン類が豊富に含まれています。ビタミンAやビタミンCには抗酸化作用があり、老化防止や美肌効果が期待できます。また、インフルエンザ等の感染症予防には、十分なエネルギーやたんぱく質とともに、ビタミンを不足なく摂り、免疫機能を高めることが重要です。

野菜の高騰が続いていますが、価格が比較的安定している『豆苗（とうみょう）』とタンパク質豊富なササミと卵を活用したレシピでアンチエイジングと感染症に負けない体作りをめざしましょう。

播州織の出産お祝い品がパワーアップ！
選べる楽しさが増えました。

当院でご出産された方々への心からのお祝いの気持ちとこれからの未来を担う子供たちの健やかな成長、そして家族の幸せを願い、西脇市の誇る伝統工芸品「播州織」を使用した出産お祝い品をお贈りしています。2013年7月より「マザーズバッグ」をプレゼントしていましたが、このたび、より幅広く育児の場面でご活用いただけるよう、種類を拡大し、リニューアル致しました。

この贈り物には、未来を担う子供たちの健やかな成長を願う思いに加え、小児医療を守る会や、地域医療検討会などをはじめ、多くの地域の皆さまのご支援への感謝の気持ちも込めています。播州織の温もりとともに、赤ちゃんの成長を見守る一品として、末永くご愛用いただければ幸いです。

西脇病院産科は、安心・安全に命の誕生を迎え、その後の育児へつなぐための支援の充実を目指し、これからも皆様と共に歩んでまいります。

災害拠点病院と災害医療派遣チーム DMAT について

～西脇病院の果たす役割～

災害医療とは？

『災害医療』、皆さんどこかで一度は耳にしたことのある言葉だと思いますが、平時の患者さんに対して十分な医療を提供できる環境下で行われる『救急医療』とは異なり、災害により対応する側の医療能力を上回るほどの医療対象者が発生した際に行われる災害時急性期・初期医療のことをいいます。

全国規模でこのような災害医療を行う能力を有する組織は『自衛隊』と『日本赤十字社』の2組織のみでした。

1995年の『阪神淡路大震災』で災害医療の課題が「防ぎえた災害死」という形で浮き彫りとなり、翌年厚生労働省によって「災害時における初期救急医療体制の充実強化を図るための医療機関」として、様々な機能を備えた病院、すなわち『災害拠点病院』が指定されるようになりました。

現在、全国には約780の災害拠点病院が存在し、兵庫県には19の災害拠点病院があります。そして西脇病院は北播磨地域唯一の災害拠点病院です。

災害拠点病院には指定要件がいくつもあり、その一つとしてDMAT（災害医療派遣チーム）を病院が有していることが要件となっています。

西脇病院のDMATチーム

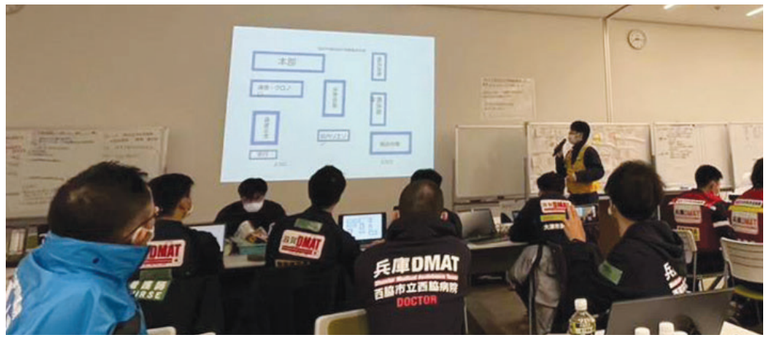
DMATとは災害の急性期（概ね48時間以内）に活動できる医療チームのことで、大規模災害や多数傷病者が発生した事故などの現場で、医療資機材を携行して医療活動を行います。

チームは医師、看護師、業務調整員で構成され、現在、西脇病院では医師1名、看護師3名、業務調整員2名と非常に少ない人員で活動を行っています。

DMATの活動は、被災地に赴き、現場での医療活動、患者さんの搬送活動、被災病院の病院支援、救護所・避難所などの設営と運営、被災地外への患者さんの搬送を行う広域搬送など、状況に応じてさまざまな業務が付与されます。すなわち、災害の超急性期に災害医療体制を確立、地域の医療福祉活動を組織化し、長期的に地域で保健医療福祉活動ができる体制を作り上げていくことがDMATの目標となります。

また、平時より災害に備えた訓練や取組にも参加し、最新の知識、様々な技術の習得・維持に努めています。

西脇病院では阪神間にあるような3次救急病院程の規模もマンパワーもないため、出動要請、即出動、とまでの機動性はありませんが、メンバーは日常業務に加えて常に災害に対してアンテナを張り巡らせています。例えば、2024年1月1日に発生の能登地震ではメンバー間で元日から連絡を取り合い、情報収集、出動準備を行っておりました。



▲能登地震の活動風景

西脇病院DMATチームの活動について

西脇病院でのDMAT活動について紹介します。

2011年の東日本大震災では岩手県の花巻空港内に設営されたSCUと呼ばれる広域医療搬送拠点で被災地外まで航空機搬送する患者さんの全身状態の安定化などに努める業務に従事しました。極寒の中での業務であり非常に厳しい任務でした。地震・津波により大混乱した中で、宿泊や病院と被災地までの交通手段なども手配しなければならず、現場活動以外の苦労も実感しました。

2016年の熊本地震では2回にわたり巨大地震が発生し、本震発災は4月16日午前1時半頃と夜中の地震発生でしたが即座に情報収集を開始し、出動となりました。DMATは自己完結型のチームであるためDMATの標準医療資器材、病院の心電図モニターや酸素ボンベなどの医療資機材、そしてメンバー自身の現地での水や携帯食料など生活用品を調達し病院の車で出発となりました。熊本に到着した当日は被災した病院支援を、翌日は震源地であった益城町の体育館に設営された避難所で自衛隊や他府県から派遣されたDMATメンバーと共に避難所の組織づくりから一般診療まで夜通し行いました。

2024年の能登地震では、被災地の地域柄、季節柄、当初は被害の全体像がつかめず、被害の詳細が分かってくるにつれ対応できる人員が圧倒的に不足しているとのことで、2週間経過したのちの

▼東日本大震災の活動風景

▼熊本地震の活動風景

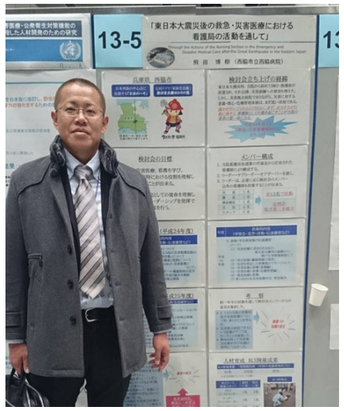
1月14日から石川県に赴くこととなりました。今回の業務は石川県の県庁や行政などとも連携をとり、被災地全体の情報収集やマネジメントを行う本部活動という非常に重要な役割を担ってきました。能登地震では能登半島という地域の特殊性、元旦に発災という寒さの一番厳しい時期であったため、避難経路の確保すらままならない状態でした。我々が派遣された期間中にもわずかに通行可能であった能登半島へ向かう国道も大雪で通行止めとなり完全に能登半島と金沢市内は遮断されてしまうという事態が起こりました。同様に空路も雪など悪天候だと自衛隊機などの離発着もできない状況、被災地からの避難において大型船を使っての海路の活用も非常に重要ですが輪島市や珠洲市の沿岸が地盤沈下などで船が着岸すらできない状態でした。本来のDMATの活動は災害発生後急性期（一般的には48時間以内）に災害医療活動を行う組織ですが、1か月を過ぎても多くのDMATの活動が必要であったことがこの度の能登地震の特殊性、深刻性を浮き彫りにしていると思われます。

また、近年は地震災害以外に風水害や感染症など多岐にわたる災害事案に対してもDMATの出動要請がなされるようになっています。

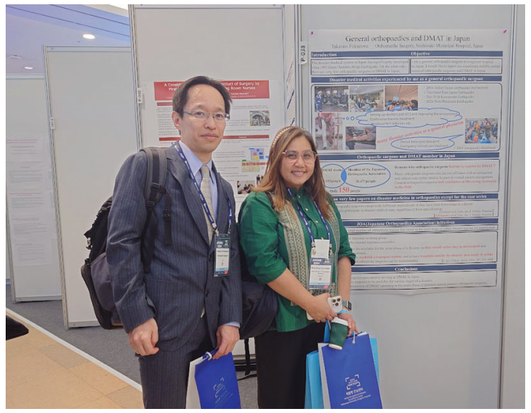
2018年の西日本豪雨、倉敷市真備町での水害の際も隣県である兵庫県には8隊ほどのDMAT出動要請がありました。当院も出動準備を行いましたが、兵庫県の災害医療センターや神戸大学病院、兵庫医科大学病院などのDMATチームが派遣されることとなりました。どうしても地方の災害拠点病院では都市部の大病院よりは迅速性に欠けてしまうのは致し方ないことか、と思っています。

また、新型コロナウイルス感染症における、2020年2月のダイヤモンドプリンセス号での事案においても厚生労働省よりDMATの出動要請がありました。まだ、当時は未知のウイルスでもあり、感染症や内科的な専門家がいるわけでもない当院のDMATの出動に関しては院内でも議論を行いましたが、出動は断念しました。活動するチームの安全管理という事で当時の判断は妥当であった、と思っています。

このような経験を西脇病院の内外に周知していくために看護師をはじめDMATメンバーは積極的に災害医学の学術集会などで学会発表も行っております。私自身も、2024年度に「整形外科医師のDMATメンバーが非常に少ないこと」を国内の学会で発表したところ、学会からの推薦を得て韓国で行われた国際学会で発表する機会を与えられました。



▲日本災害医学会にて



▲アジア・太平洋災害医学会にて

さいごに

我々DMATの活動は病院の一般診療にはあまり関わりのない活動です。

しかし、兵庫県にも岡山県東部から兵庫県南西部にかけて横断する山崎断層と呼ばれる巨大な活断層があります。今後30年以内の発生確率は1％未満と決して高くはないのですが、マグニチュード7程度の地震を引き起こす可能性があると言われています。このような地震が起こった際には北播磨地域にも甚大な被害をきたし、災害拠点病院である西脇病院が中心となって医療を提供する必要が出てくるものと考えられます。

また、今後30年以内に80％程度の確率で発生すると想定されている南海トラフ巨大地震では北播磨地域は太平洋沿岸の地域と比べると直接的な被害は小さいかもしれませんが、地震や津波で被災された地域からの患者さんが多数災害拠点病院である西脇病院へ搬送されてくることも予想されます。

DMATが活躍するような非常事態は起こってほしくはないのですが、万が一の場合に迅速、適切に対応できるよう日々研鑽を重ねているのが西脇病院DMATチームであり、不幸にもDMATチームが出動するような事態が発生した場合には地域の皆さま方にも御迷惑をお掛けすることがあるかと思いますがその際には御協力を宜しくお願い致します。

▼DMAT訓練風景

令和6年度
第3回 救急定例会

症例検討会、北はりま消防組合西脇消防署と開催

1月24日（金）、西脇消防署と「救急定例会」を開催しました。この定例会では、119番通報から病院搬送の間において救急隊員が対応・判断に苦慮したケースや疑問が生じた症例について取り上げ、当院の医師等から医学的知見に基づいた解説・助言を行います。また、救急患者の搬送に関する要望・希望を相互に提案し、地域での救急活動の改善・向上を目指して協議を行います。

この日の定例会には、消防・病院からあわせて23名が参加し、「救急搬送中において容態の急変した事例」について、考えられる急変の原因とその対応策、今後の改善点などを話し合いました。

活動報告

西脇病院ではより良い医療を提供するために医療技術や診療に対すること、患者さんへのコミュニケーションスキルなど、幅広い知識を学ぶための職員研修を行っています。令和6年度に全職員を対象に実施した研修の一部をご紹介します。

手話研修

「聴覚障害者の理解と接遇」と題して、西脇市役所の社会福祉課の手話通訳士小西智晶さんを講師としてお招きし、手話研修を実施しました。

ろう者とコミュニケーションをとる際は、内容を簡潔に具体的に伝えることを意識し、相手の表情を確認しながら、表情や身振りなどで表したり、そして何よりも相手に伝えようとする気持ちが大切であると学びました。

聴覚障害者の理解と認識を深めるとともに、病院での聴覚障害者とのコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な手話も学ぶことができ、有意義な研修となりました。

接遇研修

広報研修委員会では、職員のコミュニケーションスキルや患者対応能力の向上を目的に幅広い分野の講師を招いて、接遇研修を行っています。今年度は、特定非営利活動法人日本接遇教育協会のうぐ森まる美氏を講師としてお招きし、「医療現場における接遇、ハラスメント、クレーム対応」をテーマに研修を実施しました。職場におけるコミュニケーションや、医療現場に必要な接遇についての理解を深め、患者さんへの心のこもった対応や職員同士での良好な人間関係の構築について学ぶことができました。今回の研修を踏まえて、心温まる現場を作り、患者さんにより良い医療を提供できるよう、より一層努めてまいります。

令和6年度 下半期 はなみずきの会 活動ご紹介

市立西脇病院乳腺外科　　三輪　教子

はなみずきの会は治療を受けている病院を限らないユニークな乳がん患者会です（平成21（2009）年に北播磨初に発足）。2024年12月ごろよりインフルエンザ感染者が急増するとともに新型コロナウィルス感染者の数も増え、感染予防に努めて慎重に患者会活動を行っています。

1 乳がん患者さんとご家族の不安の軽減（対象は乳がん患者さんとご家族）

定例会（奇数月の最後の土曜日の14－16時）

例年通り、病院講堂で感染対策をして実施しました。今年度は院内講師の先生方にコロナ禍以前と同様に来ていただいての開催を復活させました。下半期は、1月25日および3月29日です。1月には8人参加され、新しい方が3人来て下さいました！広報に開始時間が13時からと間違って掲載されてしまっていたようで、ご迷惑をお掛けしてすみませんでした。いつも1月が栄養士さんのお話であり、年末年始後の体重補正にちょうどよいタイミングであると思っています。今年も太らない食事のコツを栄養士さんを囲んで学びました。いつも通り前半は近況報告や決意表明（次回外来までに痩せます！など）などなど、和やかな会となりました。3月には病院薬剤師さんに来ていただき、「薬とのうまい付き合い方（仮題）」でお話頂く予定にしています。

2 歩こう会（対象は健康に関心のある方ならどなたでも）

2024年10月27日（日）午前9時

市民総合センターに集合し、やすらぎの道をのんびり歩きました。今年はいつもと反対方向で、西脇市駅に向かって歩きました。世話人を含めて7人の参加でした。播州織の「がん検診に行こう」が目印です！西脇市の健幸ポイント企画に参加されている方、大体6000歩を無理なく歩けるコースです。来年ぜひご一緒に！！

3 にしわき乳がん市民公開講座（対象は健康に関心のある方ならどなたでも）

2024年11月30日（土）14時-15時　みらいえ

今年は総勢14名の参加となりました！テーマは「がん予防について。　～国立がん研究センターの最新の情報から～」でした。西脇市健幸アンバサダーフォローアップ講座で紹介させていただいたこともあり、その流れで来て下さった方や、西脇病院HPで調べて北播磨圏外からお越し下さったかたもいらっしゃいました。会終了後の個別に熱心にご質問いただきました。会終了時に、健康グッズをみなさんに差し上げました。日々の運動にお役立て下されば幸いです。

令和6年度上半期行事予定（変更の場合、広報や病院ホームページでお知らせします）

①定例会14時－16時　西脇病院講堂。令和7年5月31日（土）、7月26日（土）。

②「がん検診に行こう」啓蒙企画。もしも西脇病院フェスタ復活しましたら、5年ぶりに啓蒙企画を復活させたいと思っています。

■お問い合わせ　　西脇病院乳腺外科　　三輪　教子
TEL.0795-22-0111　✉ nishiwakinyugan@yahoo.co.jp